

第1回県立あすなろの郷検討委員会の議事概要

○ 日 時 平成28年9月1日(木) 15:00~17:00

○ 会 場 あすなろの郷管理棟研修室

○ 出席者 委員10名, 事務局, 社会福祉事業団

○ 議 事

議事に先立ち、小澤委員を委員長に、有波委員を副委員長に選出した。県立あすなろの郷の主な課題について自由に議論を行った。主な意見は以下のとおり。

(1) 県立施設の役割と機能(民間施設との役割分担)

・あすなろの郷は最後の救いの場として、民間で面倒見られない方をみてほしい。親なき利用者への救いも大切である。

・高齢化については、高齢者専用の「高齢化棟」が必要となる。重度化についても、引き続き医療的な支援が必要である。あすなろの郷は「終のすみか」であってほしい。

・あすなろの郷は、入所者以外の在宅者も支援する拠点であってほしい。

・半世紀で随分かわり、これからも変わっていくだろう。フレキシブルに対応できるか。

・重度・高齢・医療に特化するといった、ワーキングの方向性を深める流れでいきたい。

(2) 適切な運営主体(運営検証を含む)

・ソフト面の課題としては、人材が集まらないこと、地域移行が進まないことがあげられる。

・人材の問題には、魅力ある職場にしていくことと、スキルアップを図ることが大切。

・公立施設として、入所者受入れの際には、いわゆる「出口」を見据えながら支援していくべきである。

・あすなろ育成会が資金提供して、定年した職員に管理者になってもらい、「のれん分け」みたいなものをしていかないと、あすなろのノウハウが伝承していかない。

(3) 施設の適正規模

・規模については、知的障害者の生活をどう助けていくかという視点が大切。

・現在の経済情勢では、施設を大きくしていくことは難しいのではないか。

・利用者本人のためには小規模の方がよいが、経営が成り立たないこともある。経営的な視点も加味して規模を考えるべきである。

・施設の適正規模には、全体の需要とその見通し、民間がどの程度対応できるか、の整理が必要。

(4) 施設の建て替え・土地活用方策

・老朽化等ハード面の課題は大きく、入所者へのサービスが十分と言えるのか疑問がある。利用者が本当に幸せなのか。建て替えの議論を進めてほしい。

・どのように建て替えるのかという視点が重要。

・建て替えの前に、新しい施設・設備に移行するのは何が必要か、職員がしっかりと考えておくことが大切。事業団もきちんと準備をしておく必要がある。

(5) その他

・あすなろの郷を利用できない人々がどう感じるか。現在利用している家族の考え方を変えてほしい。支援を受けられない人達の視点も必要。

・建て替えを視野に入れた検討委員会は評価できる。

・指定管理制度において、精算制だと事業団のインセンティブがわからないのではないか。

・あすなろの内部から改革提案がないのは大きな問題。

今後、以下の事項について情報整理を行い、論点を絞りながら検討を行っていく。

・他県の事例(宮城県等)

・全体の需要とその見通し等

・強度行動障害等の利用者の特性別の割合等